箕面市教育大綱別紙 2022 の結果報告

学校教育　子どもたちの「生きる力」と「つながる力」を育みます

①　英語教育の強化によるグローバル人材の育成

◆外国人の英語指導助手をすべての小学校に 3～5 人ずつ、中学校に 3～4 人ずつ配置する全 76 人体制を目指すとともに英語専科加配を全 14 小学校に配置する。
◆チームティーチングや少人数での英語活動を行い、児童生徒に高い英語力を習得させる。
◆多文化理解も深めながら、英語で自分の考えを表現する実践的なコミュニケーション能力の基礎を築く。

令和 4 年度取り組み

●一般財団法人自治体国際化協会が実施する「語学指導等を行う外国青年招致事業（JET プログラム）」等を活用し、計 76 人の英語指導助手を小中学校に配置することで、全学年において複数 ALT を活用したチームティーチングや少人数グループでの活動を通した英語授業を実現しました。それにより、子どもたち一人ひとりの英語による発話量を増やすことができ、児童生徒に高い英語力を身につけさせることができました。
●小学校英語専科加配を全 14 校に配置し、中学校英語科免許を有する教員による、質の高い英語教育を実施しました。
●全中学校で週１回の英語コミュニケーション科を箕面市独自で実施し、英語で自分の考えを表現する環境づくりを平成 27 年度から 8 年間行ってきました。また、英語コミュニケーション科の指導をより充実させるために、箕面市オリジナル指導案集『Hold Hands for JHS』を作成し、全ての担当教員が 4 技能を意識した授業づくりを行うことができました。
●市内在学の小学 5 年生から中学 2 年生を対象に、自分のことや学校生活の思い出などを英語で表現豊かにスピーチする、「第 8 回箕面市イングリッシュエクスプレッションコンテスト」を大阪大学外国語学部箕面キャンパスで実施し、各校から計 59 名が参加しました。
●実践的なコミュニケーション能力を身につける場として、学習した英語を使いながら海外の街を模した会場をまわるイングリッシュタウンを全小学校の 6 年生を対象に実施しました。
●中学 3 年生を対象に実施した英検 IBA の結果、英検 3 級相当以上の力がある生徒の割合は 80.7%と、前年度より約 6%増加しました。

□英検IBA（英検 3 級相当以上）の推移

	H30	R1	R2	R3	R4
箕面市	79.7%	78.3%	77.5%	74.9%	80.7%

次年度の方向性

▶ 引き続き、計 76 人の英語指導助手を全小中学校に配置していきます。
▶ 中学校区ごとに ALT を一同に集め、さらに一人ひとりの英語による発話量を増やす授業を実施します。
▶ Enjoy English を言語活動をより重視したものに改訂し、小学 5･6 年生の授業改善に取り組みます。
▶ 教科としての英語が中学校から本格的に始まるにあたり、英語でコミュニケーションを取ることの楽しさを小学 6 年生で体感させるため、実践的なコミュニケーション能力を身につける場として、イングリッシュタウンを全小学校で開催します。

▶ 大阪大学外国語学部と連携し、第 9 回箕面市イングリッシュエクスプレッションコンテストを箕面キャンパスで開催します。

② ICT を活用した情報活用能力の向上

◆1 人 1 台のタブレット端末を円滑にストレスを感じることがなく活用できるよう校内ネットワーク環境の拡充に努め、オンライン授業のさらなる充実・工夫を図る。
◆デジタルドリルを活用した個別最適化学習や持ち帰り学習などの取り組みを引き続き進め、子どもたちの資質・能力を一層確実に育成する。
◆これまでに蓄積してきた個々の学びのデータを分析し、学習支援に活用する。

令和 4 年度取り組み

●校内ネットワーク環境の拡充のため、普段の授業や災害時に一般開放することが可能な可動式 Wi-Fi を、各校の特別教室に 3～4 台ずつ配備しました。これにより、普段の授業でもタブレット端末を活用できる環境の向上に繋がりました。また、昨年の台風による避難所運営時には、体育館で可動式 Wi-Fi を活用しました。
●特別教室でも安定したオンライン授業配信ができるよう、各小学校に複数台のオンライン配信用タブレット端末を導入しました。
●令和元年度より 4 校（箕面小、北小、一中、彩都の丘学園）をモデル校として取り組んできた「学校における先端技術の活用に関する実証事業」について、今年度より対象校を全校に拡大し、10 月から 12 月までの 2 ヶ月間で、モデル校は 10 授業、他校は 3 授業の成績予測による個別指導および、授業の可視化による授業支援・研修支援の検証を実施しました。
□授業中の教員の発話量や児童生徒の動きを撮影し、AI 分析による客観的なデータをフィードバックすることで、教員自身の授業改善に役立てることができました。
□箕面小学校において、教員養成フラッグシップ大学である大阪教育大学の陸奥田教授と、当事業のシステムを活用した研究授業を実施し、分析結果を基に実施した研究授業における協議を実施しました。
□ステップアップ調査等の結果を AI 分析し、児童生徒一人ひとりの取り組むべき課題を明確化したことで、「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの充実に関する参考資料」に示されている、指導の個別最適化に向けた取り組みを進めました。
□2 月 21 日に、オンラインにて当事業の成果報告会を実施しました。
これらの取り組みを継続し、個別最適化された学びの実現・充実、教員による授業改善を進めました。
●学校現場において教員が利用する学習系端末と校務系端末を統合し、1 台の端末で学習系ネットワーク、校務系ネットワークの両方が利用できる 2in1 環境を構築し業務改善を図るため、大和高田市、大東市、八尾市等の取り組みを視察し、本市の環境構築について検討しました。
●学習支援ソフト「tomoLinks」のバージョンアップを行い、スマートフォン（iOS のみ）のアプリ上から資料をダウンロードし、家庭で印刷することが可能となりました。これにより、保護者による利便性が向上しました。

次年度の方向性

▶ 2in1 環境の構築に向けた検討を進め、業務改善を図ります。
▶ モデル校の 4 校（箕面小、北小、一中、彩都の丘学園）で取り組んだ「学校における先端技術活用事業」の分析結果を踏まえて、授業分析における結果の細分化の検討や、授業撮影からデータ返却までの短縮化、学習系データとの連携等について、引き続き調査・研究を進めます。
▶ 児童生徒端末の故障・破損時における修理、返却までの工程について見直しを行い、よりスムーズに児童生徒へ端末が返却されるよう努めます。

③ 体力向上を図る取り組み

◆副読本・指導書を活用した体育授業から運動に対する意欲を高める取り組みや、小・中学校の箕面子どもステップアップ調査の分析結果を活用して、体を動かすことが大好きな子どもを育んでいく。

◆熱中症対策をしたうえで夏季の運動機会の確保に努め、児童生徒の体力向上を図る。

令和 4 年度取り組み

●教員の指導力向上を目的とし、箕面市教育研究会体育部会の教員を対象にコスモスポーツクラブのコーチを講師として招いて、副読本・指導書を活用した授業づくりに関する指導研修会を実施しました。

実施日	場所	内容
7 月	萱野東小	陸上領域（ハードル走）と器械運動領域（前転等）の指導について
1 月	西小	ボール運動（フラッグフットボール）と体づくり運動（なわとび）の指導について

□指導研修会実施後のアンケート結果では、9 割の教員から肯定的な評価を得ることができました。

●全国体力・運動能力調査結果

対　　象：小学校 5 年生

調査内容：箕面市と各都道府県の得点数を比較して順位付け

	箕面市		大阪府	
	男子	女子	男子	女子
R4	26 位	43 位	46 位	45 位
R3	13 位	26 位	46 位	44 位

●小中の接続を意識するため、これまで小学校の体力向上担当者向けに、子どもの体力の現状と課題・優れた授業実践の共有を図る場として開催していた体力向上推進部会を、各中学校の体力向上担当者にまで対象を拡大しました。日々の体育授業を通して運動に親しむ子どもを育むことが体力向上に繋がることが共有できました。

●北小学校をモデル校として、天候に左右されない民間プール施設（かやの中央スイミングスクール）で水泳授業を全学年で実施し、専門インストラクターの指導による児童の泳力向上を目指した取り組みを実施しました。

□民間プールを活用した水泳授業後アンケート結果

①児童への設問内容 （回答数 231 人）	肯定率
泳力が高まったと思いますか。	92.2%
指導前より「泳ぐこと」が好きになりましたか。	87.0%
取り組んだ泳法の正しい泳ぎ方を理解できましたか。	93.9%

②教員への設問内容 （回答数 30 人）	肯定率
インストラクターの指導から学ぶところはあったか。	100%
インストラクターによる指導が続くと泳力が高まると感じるか。	100%
教員の負担は、民間プールの方が少ないか。	90.0%

●4 月に熱中症アドバイザー養成研修会、熱中症予防対策研修会を開催し、教員の熱中症に係る知見を深めました。

●スポーツ庁の地域部活動推進事業『休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究』を受け、地域の指導者による地域クラブ（クリニック）をモデル実施し、検証しました。具体的には、箕面市体育連盟から派遣された指導者が、休日における「クリニック」をテニスで 8 回、ソフトボールで 9 回実施しました。

□実施校（種目）：第一中学校（テニス）、第三中学校（テニス・ソフトボール）、彩都の丘学園（テニス）

□第一中学校と第三中学校のテニスは、ブロック開催（合同練習）しました。ブロック開催では、参加人数が多い時は、練習の機会が少なくなるという課題がありました。

●部活動の在り方について「部活動地域移行事業実行委員会」を 4 回開催し、今年度のモデル事業と今後の方向性について協議しました。

次年度の方向性

▶ 各校の体力向上担当者を対象とした体力向上推進部会を開催し、授業改善や情報共有を図ります。
▶ コスモスポーツクラブと連携した指導研修会を年間 3 回程度実施します。
▶ 民間プールを活用した水泳授業実施モデル校を小学校 4 校（北小、萱野北小、箕面小、豊川北小）に拡大し、取り組みを進めます。
▶ 休日における部活動の段階的な地域移行の運営主体を民間企業等へ委託し、箕面市体育連盟とは指導者派遣で連携を行い、実施校及び種目を拡大しながら検証を進めます。

	検証①	検証②	検証③
内容	テニス、ソフトボールの実施校を拡げてモデル実施	テニス、ソフトボール以外の全種目をいずれかの学校でモデル実施	全種目を 1 校でモデル実施
実施回数	11 回程度	1～6 回程度	6 回程度

▶ 部活動地域移行事業について、指導者研修や、地域団体・企業・大学等との連携に関する検討・調査を進めます。

④ 小中一貫教育のさらなる推進

◆9 年間の連続性のあるカリキュラムの策定や連携型小中一貫教育の推進に向け、小中学校間を一体化した人事配置をより一層進める。

令和 4 年度取り組み

●児童生徒の論理的思考力や創造性、問題解決能力等の育成を目的としたプログラミング教育におけるカリキュラム策定のため、各校の情報教育研究部員と各校で作成したプログラミング教育の指導案を基に 9 年間を見通したプログラミング教育の指導案をとりまとめました。
●小学 5・6 年生を対象とした第 1 回プログラミング大会（みのりんピック）を開催しました。SDGsの 17 の目標項目に関わるテーマに沿ったプログラミング作成（ゲーム）を募集したところ、54 チームが参加した大会となりました。
●昨年度に引き続き、小中学校間を一体化した人事交流を行いました。
□令和 3 年度から継続して人事交流を行いました。

学　校	科　目	取り組み
五中⇒中小	英語科	小学校の外国語で大切とされている「話す・聞く」のコミュニケーション能力だけでなく、小中の接続を意識した「書く・読む」のコミュニケーション能力の育成の観点も意識しながら指導しました。また、「ALTに任せる授業」ではなく「ALTを活用する授業」を実践しました。
中小⇒五中	保健体育科	小学校段階の児童の実態を把握しているため、適切な目標を設定し、生徒の実態にあった教材を通して授業を進めることができました。

□令和 4 年度から新たに萱野東小と四中の学校間で人事交流を行いました。

●小中の接続を推進するため、二中に小中連携担当の体育科教員を配置し、萱野小、萱野北小、北小の小学 6 年生を対象に体育授業を担当しました。対象児童に授業アンケートを実施したところ、『体育の授業でできるようになったことが増えた』の項目において、74％の児童が肯定的な回答でした。
●小中一貫教育推進連絡会を年 4 回、小中一貫教育研修を1回開催しました。小中一貫教育推進連絡会では、各中学校区での小中で連携した取り組みの事例や、校区教研（授業研究会）・校区人研（人権研修）の内容を共有することで、各校区での取り組みの改善につなげました。また、小中一貫教育研修で

は、全校から教務部・研究推進部・生徒指導部・小中一貫教育推進担当が集まり、校区ごとに小中一貫教育推進に向けての取り組みを協議しました。

●全市的な小中一貫教育の推進を目的として、小中一貫教育推進計画策定に関する検討を行っており、令和 5 年 1 月には箕面市小中一貫教育推進計画検討会議を立ち上げ、会議における検討や先進事例の視察を実施しました。

次年度の方向性

- ▶ 引き続き、プログラミング教育において 9 年間の連続したカリキュラム策定を進めていきます。
- ▶ 小学 5・6 年生で実施した第 2 回プログラミング大会（みのりんピック）について、対象を市内小中学生に拡大して開催します。
- ▶ 引き続き、二中に小中連携担当の体育科教員を配置し、小中の接続を意識した体育の授業づくりを進めます。
- ▶ 引き続き、小中一貫教育推進連絡会と小中一貫教育研修を開催し、小中が連携した取り組みについて実践報告を行うとともに、教務・研究推進・生徒指導・小中一貫教育推進の各担当者が、校区で連携する意識を持つことができるようにします。
- ▶ 令和 5 年度中の小中一貫教育推進計画策定を目標に、引き続き箕面市小中一貫教育推進計画検討会議を開催し、調査・協議を進めます。

⑤ 教員の授業力・指導力のさらなる向上

◆授業力、指導力が傑出している教育専門監（指導員）を市費で配置し、訪問校の教員を直接指導するとともに、全小学校の若手教員を指導する中堅教員に指導助言することで、教員の授業力・指導力の向上を図る。

◆ステップアップ調査等のデータを分析し、教育専門監の増員や中学校への新たな配置に向けて育成に努める。

令和 4 年度取り組み

●2 名の教育専門監が箕面市内の小学校（西小・萱野東小・萱野小・北小・中小・東小）を巡回し、訪問校の中堅期で授業力のある 12 名の教員を直接指導（示範授業、チームティーチングでのサポート、授業づくりの助言等）しました。

●新たな教育専門監を養成するため、「授業力・指導力」、「授業研究への熱意」、「校内研究を推進する力」など教育専門監としての資質・能力を備えた小学校教員 3 名を対象に、更なる「授業力・指導力」及び「他の教員の授業を評価し、指導・助言する力」などを養う「指導力向上研修」を 7 回実施しました。

●教員が授業に専念できる環境を整えるため、「パイロット校」・「ミニパイロット校」に指定した学校には、校務分掌を統括するミドルリーダーを配置するために授業支援員を市費で加配し、一人ひとりの教員の業務負担を軽減できるように環境改善を推進しました。また、ICT 関連のメンテナンスや成績等の入力を行う事務支援員を市費で加配し、教員の事務作業を軽減しました。

次年度の方向性

- ▶「指導力向上研修」を受講した 3 名を教育専門監（候補生）として追加配置し、5 名体制で全小学校の訪問指導を実施します。
- ▶ 中学校については、箕面市教育研究会と連携し、研修講師の招聘やオンデマンド配信による研究成果の発信等で各教科ごとの授業研究の推進を支援します。また、大阪府のスクール・エンパワーメント推進事

業を活用し、推進拠点中学校による公開授業・実践報告会を実施して指導方法の工夫や改善についての研究成果を市内に普及することで授業改善を図っていきます。

▶ 教員が授業に専念できる環境を整えるため、パイロット校等配置事業を実施していきます。また、事務支援員の配置効果を見極め、配置校の拡大を目指します。

⑥ 35 人学級の早期実現

◆国の動きに先駆けて、令和 4 年度に小学校 4 年生を 35 人学級とし、1 年前倒しで令和 6 年度までに順次、全学年へ拡大することで、きめ細かな指導体制・環境整備を早期に構築する。

令和 4 年度取り組み

●南小、西小、萱野東小、豊川北小、彩都の丘小の 5 校において、各校 1 名ずつ、計 5 名の教員を市費で配置し、国よりも1年前倒しで小学校 4 年生の 35 人学級を実現し、きめ細やかな指導を行いました。

次年度の方向性

▶ 令和 5 年度は、小学校 5 年生の 35 人学級を実施するため、児童数が 1 学級あたり 35 人を超える見込の 5 校(南小、西小、萱野東小、豊川北小、彩都の丘小)に合計 5 名の教員を市費で配置する予定です。

⑦ 児童生徒を誰ひとり取り残さない支援

◆学校になじめない、学習についていけない、病気等による長期欠席、生活困窮家庭及び日本語を母語としないなどの児童生徒において、必要となる学習手段や居場所づくり等の支援を実施する。

◆いじめの未然防止や支援教育の見直し、充実に向けた取り組みを強力に進める。

(1)支援教育・いじめ・不登校

令和 4 年度取り組み

●令和 4 年 4 月に箕面市教育委員会から箕面市支援教育充実検討委員会に、「今後の支援教育の在り方について」諮問を行い、計 10 回の検討委員会を開催し、令和 5 年 1 月に箕面市支援教育充実検討委員会より、答申をいただきました。この答申を踏まえ、箕面市教育委員会において、「箕面市支援教育方針」を策定しました。

●市スクールカウンセラー(以降 SC という)と市スクールソーシャルワーカー(以降 SSW という)の勤務形態を見直しました。小学校での市 SC の勤務回数を月 1 回(昨年度)から月 2 回(今年度)に増やし、子どもへのより細かな心理的ケアに努め、中学校へは昨年度同様、府SCを週1回配置しました。

　また、SSW においては小学校へ週 1 回、中学校へ月 2 回学校で勤務しながら、学校とより密に連携をとりながら子どもたちへの支援を行いました。勤務形態を見直したことにより、SSW が対応した児童生徒数が昨年度の 12 月末に比べ、今年度の 12 月末では増加し、また SSW が連携した関係機関数が昨年度末の件数を 12 月末時点で既に超え、児童生徒や学校への支援につなげることができました。

●いじめの加害・被害に支援学級在籍の児童生徒が多くいたことから、「いじめ事案共有シート」に支援・通級の在籍を把握するチェック項目を追記しました。2 学期末までに約 138 件(R3 年 2 学期:158 件)の「いじめ事案共有シート」が学校から提出されました。

●いじめの早期発見につなげるために、思いや悩みを管理職や担任等に発信ができる「いじめ未然防止シ

ステム”こころの日記”」の運用を令和 5 年 1 月から全校で開始しました。

●各学期毎に市内全小中学校へ指導主事や適応指導教室加配教員、相談統括員が訪問し、不登校に係る児童生徒の状況把握及び学校対応における指導・助言を行いました。ヒアリングの対象となる児童生徒の学校内外における相談機関との連携状況を把握し、学習支援事業の活用や SC・SSW との連携を学校へ促すことができました。

●各学期毎に「不登校担当者会」を開催し、市内の不登校状況や課題についての情報共有や今後の取り組み等について協議を行いました。さらに、相談機関との連携の大切さをテーマとした研修を開催し、SC・SSW の活用事例を紹介しました。教員に対して、不登校における正しい知識や理解を広めることができました。

□箕面市の不登校千人率（児童生徒千人当たりの不登校発生数）推移

	H30	R1	R2	R3	R4（12 月末）
小学校	2.9	3.1	5.9	6.9	7.1
中学校	22.0	16.4	15.1	22.8	21.0

次年度の方向性

▶ 令和 5 年 1 月に箕面市支援教育充実検討委員会より「今後の支援教育の在り方について（答申）」を受け、本市が実施する支援教育に対して、令和 5 年 2 月に「箕面市支援教育方針」を策定しました。来年度以降も引き続き箕面市支援教育充実検討委員会を開催し、支援教育の充実に向けた効果検証を行っていきます。

【新たな取り組み事項】

①通級指導教室の全校設置	⑤教員の研修強化
②専門性の高い任期付の「支援教育支援員」の増員	⑥支援教育コーディネーターや支援学級の担任を府立豊中支援学校へ派遣
③LITALICO 教育ソフトの導入	⑦専門家による授業指導
④特別支援学校教諭免許の取得のサポート	⑧支援教育専門員の配置

▶ 文部科学省の通知の主旨のとおり、障害のある子どもとない子どもが可能な限りともに過ごしながら、一人ひとりの教育的ニーズに応じた学びの場の整備を行い、特別の教育課程を適切に実施していきます。

▶ 約 40 年以上前から実施している「箕面市の支援教育（ともに学び ともに育つ）」の理念を大切にし、検討委員会で議論を重ねた様々な方策を実施していきます。

▶ 引き続き、いじめ重大事態をさらに重篤化させないため、相談体制の充実に関する研修を行うなど、未然防止に力を入れるとともに、学校がいじめを認知した時点で、いじめの概要と対応方針を市に報告するなど積極的認知と早期対応に努めていきます。また、「不登校担当者会」を開催し、それぞれが持つ児童生徒の情報を収集し、校務支援システムを活用して学年間及び小中学校間の引継ぎを行うなど、切れ目ない支援を徹底していきます。

▶ 「こころの日記」機能を活用し、児童生徒の日々の気持ちの変化を把握し必要に応じてタイムリーな対応を行い、いじめ未然防止、早期発見、早期対応に繋がるよう指導助言に努めていきます。

▶ 課題のある児童生徒の理解を深めるために SC・SSW と連携し、多角的な視点を用いたアセスメントで児童生徒を支援する体制作りを促進し、学校が子どものたちの居場所であり続けられるよう努めていきます。

▶ 学期末に全小中学校へヒアリングに行き、不登校問題の状況把握と指導助言に努めていきます。

(2)学習支援

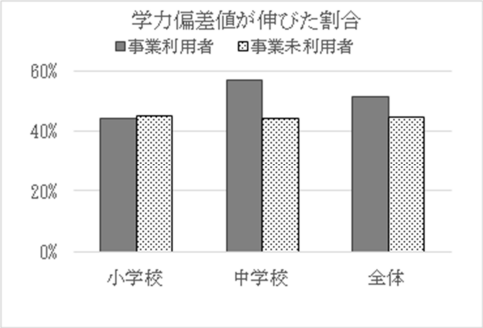
令和 4 年度取り組み

●不登校や病気による長期欠席等により学習支援を必要とする児童生徒を支援するとともに、当該児童が中学卒業後においても将来の進路を選択する能力を習得する機会を提供するため、学習を中心とした支援を行う学生サポーターを派遣しました。

※()内は R3 年度実績

委託先	担当校	利用人数
NPO 法人 あっとすくーる	二中校区、五中校区、 六中校区、とどろみの森学園	73 人(90 人)
トライグループ	一中校区、三中校区、 四中校区、彩都の丘学園	72 人(57 人)

□ステップアップ調査の結果



次年度の方向性

- ▶ 不登校等の児童生徒を支援するため、引き続き学生サポーターの派遣を実施します。
- ▶ 中学卒業後の生徒の中退防止のため、引き続き、事業を利用する生徒が通う高校を、事務局職員が訪問し連携していきます。

(3)すたさぽ

令和 4 年度取り組み

●放課後に児童が自由に参加して学習ができる場を提供するため、市立小学校全校において児童の学習サポートをする専任の放課後学習支援員を配置した放課後学習支援室「すたさぽ」を開室し、生活困窮世帯等の児童等へより丁寧な支援を行いました。

□1 日の平均利用者数　R4 年度:29 人/1 校　(R3 年度:22 人/1 校)

※うち、生活困窮世帯の児童の利用者数　2 人/1 校

次年度の方向性

- ▶ 学校と連携し、生活困窮世帯等の児童等の参加率向上に努めます。

(4)日本語支援

令和 4 年度取り組み

●日本語指導支援事業

日本語の理解が困難な帰国児童生徒や渡日の外国人の児童生徒に対し、学校での生活及び学習を支援するため、日本語指導ボランティアの派遣を実施しました。また、日本語の理解が困難な保護者と学校との連携を支援するため、通訳者の派遣を実施しました。

以下、2 月末時点での実施状況です。※()内は R3年度実績

日本語指導	言語	対象人数	派遣回数
萱野小、南小、東小、西南小、萱野東小、豊川南小、彩都の丘小、一中、二中、四中、五中	英語、中国語、韓国･朝鮮語	13 人(6 人)	279 回(92 回)

保護者通訳指導	言語	対象人数	派遣回数
南小、東小、萱野北小、一中、二中、四中	英語、アラビア語、ネパール語 中国語、インドネシア語	10 人(10 人)	20 回(19 回)

●放課後等日本語教室支援事業

日本語の理解が困難な帰国児童生徒や渡日の外国人の児童生徒に対し、学校での生活及び学習を

支援するため、放課後等に日本語指導ボランティアにより日本語教室を実施しました。
以下、2 月末時点での実施状況です。

□実施校： 萱野小、南小、東小、豊川南小、一中、二中、四中
□参加児童生徒数： 12 人　□実施回数：200 回

次年度の方向性

- ▶ 日本語支援の対象となる児童生徒は急な転入や転出があり、学校からの要請があった場合、速やかに対応する必要がありました。そのため、通訳者を確保しにくい言語（ネパール語やアラビア語など）への対応も含め、引き続きボランティア確保に努めていきます。
- ▶ 中学校での授業支援の場合、教科が専門的になるため、教科内容を理解し通訳できるボランティアが必要でした。そのため、中学校への派遣に対応出来るボランティア確保に努めていきます。
- ▶ 日本語支援を必要とする児童生徒については、家庭との連携も重要でした。そのため、箕面市国際交流協会などの機関と連携し、市内の日本語支援を必要とする児童生徒の情報共有を丁寧に行い、支援体制の充実に努めます。

(5)中高連携モデル事業

令和4年度取り組み

●市配置 SSW と大阪府配置の SSW との連携を検討するために、大阪府立箕面東高等学校をモデル校とした「中高連携モデル事業」を立ち上げ、既存の教員間の引継ぎに加え、どのような連携を図れるかについて意見交換を 3 回行いました。

●中高連携ケース会議を実施し、課題のある生徒に対する支援方法などの共有を行うことができました。

次年度の方向性

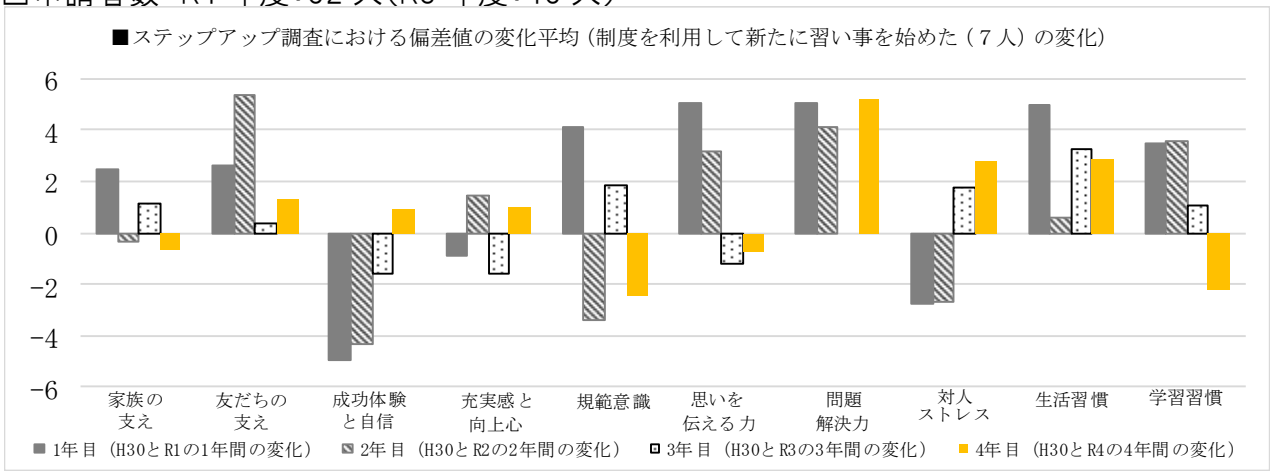
- ▶ 中学校在籍時に個別に作成しているアセスメントシートを、進学時に市 SSW から府 SSW に共有できるように調整していきます。
- ▶ 中退、転学等のリスクが出た際は、必要に応じて市 SSW と府 SSW が連携を図ります。

(6)塾代等助成モデル事業

令和 4 年度取り組み

●生活困窮世帯の児童が塾やスポーツ教室などの習い事を利用し、興味のある活動に取り組むことで、自信や意欲、生活・学習習慣等の向上につながるかどうかを検証するため、生活保護・児童扶養手当の受給世帯のうち、小学 6 年生の児童が通う塾やスポーツ教室等の習い事にかかる費用を助成しました。

□申請者数　R4 年度：52 人（R3 年度：45 人）



次年度の方向性

▶ 対象児童の小学校卒業を機に令和４年度をもってモデル事業は終了しますが、検証作業は一部継続し、対象児童の中学校入学後の登校状況や部活動への意欲を見届けます。

⑧ 持続可能な社会に向けた学習の充実

◆新型コロナウイルス感染症対策として、引き続き学校教育に新しい生活様式を取り入れていく。また、SDGs の 17 の目標を実現していくために、これから社会の主役となる子どもたちが自ら考え、行動できる学びの充実を図る。

令和４年度取り組み

目標４　質の高い教育をみんなに

●青少年教学の森野外活動センターは、7 月 30 日に「オルタナの森・Minoh」を愛称として、施設の一部が先行リニューアルオープンしました。引き続き、子どもたちの自然体験や野外活動体験を通じた健全育成事業を実施しました。

目標７　エネルギーをみんなに　そしてクリーンに

●全小中学校（20 校）の太陽光発電設備設置工事、屋上防水改修工事に伴う設計委託・建築工事（防水工事）・電気工事の一部を実施しました。なお、太陽光発電設置については、1 校あたり最大 150kW 容量、全校合計で約 3,000kW 容量（標準的な一般家庭における 1 日の消費電力量の約 685 軒分に相当）の発電設備の設置を予定してします。

目標 11　住み続けられるまちづくりを

●全中学校で、「住みやすいまちづくり」などをテーマに、市長と生徒の意見交換を実施しました。生徒目線の各地域課題を市長と共有し、課題解決に向けた意見交換を実施しました。

目標 12　つくる責任　つかう責任

●学校給食の献立で残食の多いメニューについては、味付けや調理方法等の改善に努めました。

（全校平均残食率）

	米飯	副食	牛乳
令和４年２学期	4.7%	4.3%	4.5%
令和３年度	6.6%	5.4%	6.7%

●食と健康に関する授業や、食品ロスに関する授業を行い、子どもたちが自発的に残さず食べようという意識を持つよう啓発しました。

●浄水場やクリーンセンターの見学を通して、ごみの減量やリサイクルを行うことは CO_2 削減につながっていることを学びました。

目標 16　平和と公正をすべての人に

●小学校 14 校・中学校 7 校が修学旅行で広島・長崎・沖縄を訪れ、戦争体験者による講演を聞く等、平和について学びを深めました。

次年度の方向性

▶ 今年度、オルタナの森・Minoh で実施し、定員を上回る応募のあった青少年健全育成事業については、継続して実施できるよう指定管理者と共に取り組みます。

▶ 引き続き、給食の残食率を毎月調査し、残食率 5%以下を目標として食べ残しの削減に取り組みます。

▶ 太陽光発電設備については、引き続きパネル設置等に伴う電気工事を進め、来年度に全校竣工する予

定です。

- 引き続き、修学旅行や平和教育に関する貸出資料を使用しながら、平和について学びを深めていきます。

子育て施策　家庭・学校園所・地域で「つながる力」を育みます

①　豊かな人間力を育むための子育て支援

◆子どもの権利擁護や健やかな心身の成長の観点から、体罰によらない安心・安全な子育ての啓発や、すべての妊産婦・子どもとその保護者を対象に、個別のニーズ・課題に応じたワンストップの支援を充実・強化する。

令和 4 年度取り組み

●厚生労働省チラシ「体罰によらない子育てを広げよう！」を、1 歳 6 か月児健診、3 歳 6 か月児健診の事後指導、就学前健診及び、入学説明会で配付しました。また、スマートフォン向けアプリ「箕面くらしナビ」にリーフレットを掲載し、周知を図りました。

＜子どもを叩いて叱るなどの体罰によらない子育てをしている保護者の割合＞

	R2 年度	R3 年度	R4 年度（2 月末）
1 歳 6 か月児健診	85.6%	85.3%	86.5%
3 歳 6 か月児健診	70.9%	69.3%	75.0%

●妊娠届受付時に支援が必要な妊婦を把握した場合には、妊娠期から子どもすこやか室保健師と児童相談支援センターが連携して、訪問等により家庭状況の把握に努め、養育支援訪問等の出産後の支援につながりました。

□要保護児童対策協議会登録妊婦件数：11 件（令和 4 年 4 月～令和 5 年 2 月末時点）

次年度の方向性

▶ 乳幼児健診において体罰によらない子育てをしている保護者の割合が増えるよう取り組みを続けます。

▶ 全ての妊産婦、子育て世帯へ、より一体的な支援を行う体制とするため、現在設置している「子育て世代包括支援センター」を、令和 6 年 4 月に、改正児童福祉法に基づく「こども家庭センター」へと改編する方向で検討を進めます。

②　貧困の連鎖の根絶

◆子ども成長見守りシステムのデータや教育・福祉等の関係機関の情報をもとに、支援が必要な子どもを誰ひとり取り残さないよう、教育委員会、学校、各種機関が連携して早期発見に努め、子どもたちを支援し見守りを続けていく。

令和 4 年度取り組み

●子ども成長見守りシステムによる見守り、支援の強化を実施

支援の必要な子どもを早期発見し、支援につなげるため、令和 4 年 7 月および 12 月に「子ども成長見守りシステム」のデータを学校に提供し、学校や関係機関と連携して情報収集し、必要に応じて支援につなぎました。

【連携件数】令和 4 年 7 月：1,939 件、令和 4 年 12 月：1,943 件】

●学校や SSW、教育委員会の各担当、社協の生活相談窓口、生活・学習支援事業委託先の NPO 法人等と連携・情報共有し、支援しました。

具体的には、ひとり親家庭の保護者が仕事等による多忙のため、放任状態となっている児童や家庭環

境により精神的に不安定になっている児童に対して、学校や SSW と協力し、「子どもの生活・学習支援事業（子どもの居場所）」の利用等につなぎました。

【教育・福祉等関係機関との連携回数及び件数】 141 回、536 件（2 月末時点）

●「子どもの生活・学習支援事業」、「相談・支援連携事業」を実施しました。

□生活習慣の乱れや社会性の不足など生活面の課題を抱える子どもに対して、居場所における相談支援、日常生活習慣の形成、社会性の育成のほか、体験活動等の取組、子どもや保護者に対する養育に必要な知識の情報提供、世帯全体の課題解決に向けた相談支援等の取組を実施しました。

□「子どもの生活・学習支援事業」において、生活習慣を身につけるための指導・実践を行い、片付けの習慣が定着しはじめました。夕食中に食材の栄養について会話することで、苦手な食べ物に挑戦するなど、子どもたちの食に対する興味が高まりました。

【利用件数】「子どもの生活・学習支援事業」 13 人（2 月末時点）
日本財団の「子どもの支援施設」 11 人（2 月末時点）

次年度の方向性

▶ 学校への年 2 回のデータ提供や関係機関と見守りシステム活用会議（月 1 回）を定例開催しながら、必要な際にすぐに連携し、支援につなぐことができるよう、取り組みを進めます。

▶ 「子どもの生活・学習支援事業」において、委託先 NPO 法人から日々の子どもたちの様子を情報収集し、日本財団の「子どもの支援施設『第三の居場所』（本市 2 箇所目）」についても、委託先 NPO 法人や日本財団との連絡を密にし、保護者、児童にとって最も適切な支援策を更に提案できるように努めます。

③ 妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援

◆子育て世代包括支援センターを拠点として、妊娠届をきっかけに、すべての妊産婦や子育て中の保護者に対して、安心・安全ですこやかな妊娠・出産を支援するとともに、その後の子育て期へと切れ目のないサポートを目指す。

令和 4 年度取り組み

●妊娠届出時、すべての妊婦に対して、妊婦面接を行い支援プランを作成し、安心・安全ですこやかな妊娠・出産、産後をサポートしました。

●令和 4 年度から産婦健康診査、新生児聴覚検査の助成を開始しました。医療機関と連携し、産後の心と身体の健康維持や産後うつの防止、新生児の耳の聞こえにくさの早期発見に努めています。

（2 月末時点）
〔妊娠届出数〕 814 人
（1 月末時点）
〔産婦健康診査〕 助成件数：1,256 件（うち病院からの情報提供数 50 人）
〔新生児聴覚検査〕 助成件数：633 件（うち精密検査へのつなぎ 5 人）

●核家族化により、家族等から十分な育児等の援助が受けられない産婦及びその子どもを対象に、病院等における宿泊型・日帰り型産後ケア、利用者の居宅等を訪問する訪問型産後ケアを実施し、産後の心身の不調や産後うつにつながる孤立化の防止に取り組みました。

〔産後ケア〕 訪問型：101 回（33 人）、日帰り型：95 回（29 人）、宿泊型：76 回（33 人）（2 月末時点）

●育児相談会、両親学級、乳幼児健康診査について、感染防止対策を行い、必要な時に相談できる場を

設け、子育て支援センターなど地域の居場所につなぐことで孤立化の防止に努めました。

次年度の方向性

- ▶ 令和 5 年 1 月から 3 歳 6 か月児健康診査に導入した屈折検査により、子どもの弱視の早期発見、早期治療につなげていくよう引き続き取り組んでいきます。
- ▶ 国が新たに創設した「出産・子育て応援交付金」を活用し、全ての妊婦・子育て世帯が安心して出産・子育てできるよう、妊娠期から出産・子育てまで寄り添いながら必要な支援につなぐ伴走型相談支援の充実を図るとともに、妊娠届出や出生届出を行った妊婦・子育て世帯に対し、経済的支援「出産・子育て応援給付金（妊娠届出時・出生届出後各 5 万円、計 10 万円相当を現金支給）」を一体的に実施します。
- ▶ 全ての妊産婦、子育て世代へ、より一体的な支援を行う体制とするため、現在設置している「子育て世代包括支援センター」を、令和 6 年 4 月に、改正児童福祉法に基づく「こども家庭センター」へ改編する方向で検討を進めます。

④ すべての子どもが安心できる幼児教育の実施

◆市内保育士・幼稚園教諭・保育教諭の子ども理解力・実践力・連携力の向上を図るとともに、すべての子どもが安心できる就学前教育保育・支援教育保育のあり方を研究するため、公立・私立を問わず、人材開発及びインクルーシブに関する調査研究等を実施する（仮称）箕面市幼児教育センターを 2022 年度中に設置する。

令和 4 年度取り組み

●保育・幼児教育センター準備室を経て、令和 4 年 10 月に保育・幼児教育センターを開設しました。

●包括連携協定を締結している各大学（梅花女子大学、大阪青山大学、大阪総合保育大学）等の学識経験者等を講師とした研修の企画・実施を行い、研修の充実に取り組みました。

【研修回数】 24 回（2 月末時点） ※令和 3 年度比較　研修回数 3 倍、民間園も対象 6 倍

【参加人数】 延べ 2,779 人参加（オンデマンド配信への参加者を含む　2 月末時点）

●幼児教育サポーターによる市内 55 か所の就学前施設への巡回訪問を実施しました。

【訪問回数】 113 回（2 月末時点）

●地域における子育て支援の仕事に関心を持つかたを対象に、子育て支援員研修（一時預かりコース）を 3 月中に実施します。（受講予定者　53 名）（2 月末時点）

●就学前保育・幼児教育カリキュラムや架け橋期カリキュラムの作成に向けて準備を進めました。

●萱野小学校区をモデル地域として、公立・民間の園所、小学校、保護者で構成する「架け橋期カリキュラム開発検討会議」を設置し、当会議を 5 回、ワーキンググループを 7 回開催しました。

●公立認定こども園の開園に向けて、保護者代表、公立幼稚園・保育所、教育委員会事務局の 3 者で意見交換や情報共有を行う認定こども園設置連絡会を開催しました。（中部：3 回、西部・東部：各 1 回）

●令和 6 年 4 月の公立認定こども園（中部地域）の開園に向け、かやの幼稚園及び萱野保育所の施設改修のための実施設計を行いました。

●仮称となっていた公立認定こども園 3 園の園名について、市民公募や名称選定検討会議（地域・保護者・園所・行政で構成）を実施し、正式名称を選定しました。

次年度の方向性

- ▶ 公立・民間や施設種別の垣根を越えて、市内就学前施設における保育・幼児教育全体の質の向上をめざした取り組みを引き続き進めていきます。

- ▶ 受講者アンケートや、幼児教育サポーターによる各園への巡回訪問等を通じて、園の状況や研修ニーズ等の把握に努め、効果的な研修を企画・立案します。
- ▶ 民間の就学前施設からもご意見をいただきながら、令和 6 年 3 月に箕面市就学前保育・幼児教育カリキュラムの策定をめざします。
- ▶ 引き続き「箕面市架け橋期カリキュラム開発検討会議」を開催し、大学教授の助言をいただきながら、モデル地域としている萱野小学校・萱野保育所・かやの幼稚園・なか幼稚園、民間就学前施設、保護者と一緒に幼児教育と小学校教育の円滑な接続について検討を進めます。
- ▶ 令和 6 年 4 月の公立認定こども園(中部地域)の開園に向けて、引き続き園運営や保育・教育活動の検討を進めるとともに、かやの幼稚園の施設改修を実施します(萱野保育所は全室稼働中のため、3～5 歳児が現かやの幼稚園施設に移る令和 6 年度に改修予定)。また、適宜認定こども園設置連絡会の開催をはじめ、保護者への情報発信を行います。

⑤ 子育て支援と外出促進

◆子育て中の保護者が、どんなことでも気軽に相談できるよう、ICT を活用し、相談体制を整える。また、子育て世代の親子が孤独感なく日々過ごすことができるように、地域とのつながりをつくる機会として、気軽に集える、過ごせる場を数多く設ける。

◆市内公園においては、「幼児ユニット」を設置し、交流を促進する環境を整える。

令和 4 年度取り組み

●相談業務は、面談や電話だけでなく、メールアドレスを公開し、広く受付ができるようにしました。

相談件数:342 件(面談 310 件、電話 31 件、メール 1 件)(2 月末時点)

●8 つの子育てプログラムのうち 4 つを電子申請(Logo フォーム)により電子申請いただけるようにしました。

●室内の感染予防のため人数や時間を制限しながら、安心安全に遊べる環境を整えて実施しました。

□オープンスペース:8,415 組、年齢限定オープンスペース:186 回 1,326 組、子育てプログラム:128 回 1,069 組、出張子育てひろば:152 回 1,693 組、おひさまデイ:35 回 90 組(2 月末時点)

●コロナ禍でも気軽に集える「お外で遊ぼう」のプログラムを出来る限り多く実施しました。

利用者同士の出会いの場になり、地域のかたと顔見知りになれたり、同年齢の子どもと遊べたり、色々な情報交換ができたり、戸外あそびの楽しさを経験出来る等参加者からは大変好評なプログラムでした。

【実施回数】17 回

【参加人数】232 組 268 人参加(2 月末時点)

【実施場所】阿比太公園 3 回、各 1 回:当対池公園、仁鳥公園、桜南公園、箕面北公園、瀬川中公園、ぴあぴあグランド、皿池公園、唐池公園、小野原 2 号公園、ゆりの木公園、半町北公園、箕面西公園、今宮児童遊園、なぎの木公園

(※唐池公園、箕面西公園では幼児ユニットを使用しました。)

●本年度整備予定の 4 公園(山麓公園、西脇公園、皿池公園、芦原公園)の「幼児ユニット」のうち山麓公園は 11 月に完成、芦原公園は年度内の竣工を予定しています。

次年度の方向性

- ▶ 感染予防しながら、地域で親子が安心して集える場を開催していきます。
- ▶ 地域の公園で幼児ユニット等を活用しながら、「お外で遊ぼう」プログラムをできるだけ多く実施していきます。

- ▶ 予約申込や相談は、電話受付や面談だけでなく、電子申請（Logo フォーム）やメールなどの ICT の活用を図っていきます。
- ▶ 在宅の子育て世帯の支援ニーズを継続的に把握し、必要な情報提供や支援内容を検討します。
- ▶ 市内公園において「幼児ユニット」の整備を進め、交流を促進する環境を整えます。

生涯学習・社会教育　「いつでも・どこでも・だれでも、学びたいことを学ぶ」を育みます

① スポーツを通じた健康長寿への取り組み

◆乳幼児から若者、高齢者に至るまで、すべての世代の人たちが世代を超えて気軽にダンスや体操などスポーツを楽しめるよう運動機会の充実を図り、運動習慣の定着と体力向上を目指す。
◆就職や子育てを機に、スポーツから遠ざかっている方々がスポーツを再開し、無理なく続けていけるよう、身近な地域で気軽に参加できる環境を整備するとともに、積極的な情報発信に努める。
◆利用者が気持ちよく安全にプレーできる環境を確保するため、体育施設の整備、備品維持管理に努める。

令和 4 年度取り組み

●全世代の人たちの運動機会の充実を図り、運動習慣の定着と体力向上を目指すため、以下のスポーツイベント等を開催しました。また、各種スポーツ教室等への参加を促すため、広報紙や市ホームページ、箕面市公式 Twitter 等を活用した情報発信を行い、特に、広報紙においては、令和 4 年 6 月号からより対象者が明確になるよう記事レイアウトの見直しを行いました。これらの取り組みの結果、スポーツ教室参加者が「令和 3 年度 6 月～2 月実績：28,392 人」から「令和 4 年度 6 月～2 月実績：34,173 人」に増加しました。

イベント名	対象世代	内容
ジュニアソフトボール大会	子ども	箕面市在住または在学の児童（小学 3 年生から小学 6 年生）を対象としたソフトボール大会。9 チーム、106 人が参加した。
スポーツカーニバル	全世代	「メダリストによる体操教室」、「ファミリー体力測定」等、計 22 種目を実施し、延べ 684 人が参加した。
世代間交流軽スポーツ大会	全世代	軽スポーツ「ペタンク」を通じて子どもから高齢者までの世代間交流を図ることを目的とした大会を実施し、延べ 210 人が参加した。

●勤労世代・子育て世代に特化したスポーツ推進事業「大人のスポーツ・トライアル事業」を開催しました。魅力的な教室とするため、バレーボール教室において、市と包括連携協定を締結している「サントリーサンバーズ」に講師を担当してもらう等、関係団体と協同した取り組みを進めました。
●利用者が気持ちよく安全にプレーできる環境を維持するため、「箕面市スポーツ施設マネジメント計画」に基づき、スポーツ施設の設備や備品等の定期更新を実施しました。

次年度の方向性

▶ 引き続き、魅力あるスポーツイベント・スポーツ教室を実施するとともに、広報紙や市ホームページ、箕面市公式 Twitter 等を活用した効果的な情報発信を行うなど、全世代の人たちの運動機会の充実を図り、運動習慣の定着と体力向上を目指す取り組みを継続します。特に、大人のスポーツ・トライアル事業においては、教室終了後も参加者の運動習慣が持続することを最大の目標に、参加率の向上や参加者の意識改革に寄与する魅力的な教室内容の実現を目指します。
▶ サントリーサンバーズとの包括連携協定等を活かした事業を実施し、スポーツ活動を通じた地域の活性化や市民のスポーツ機会の提供に向けた取り組みを協力して推進します。
▶「箕面市スポーツ施設マネジメント計画」を適切に運用し、定期更新を実施します。

② 図書館サービスの充実

◆社会のデジタル化進展を活かし、来館しなくても図書を利用できる電子図書館の活用について、学校教育や「はじめてのスマートフォン体験講座」などを通じて推進する。
◆乳幼児から高齢者まで誰もが利用しやすい公共図書館づくりを進める。

令和 4 年度取り組み

●児童･生徒による電子図書館の利用を促進するため、学校図書館司書向けの研修を実施するとともに、学校での利用に関する注意点等について学校図書館司書と市立図書館司書による意見交換を実施しました。

●電子図書館では、4 月から電子雑誌の利用を開始（約 100 タイトル以上）するとともに、電子書籍を約 2,300 冊に拡大（前年比約 650 冊増）するなど読書環境の充実を図り、恒常的な利用を促進しました。

＜電子図書館利用状況＞

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
電子書籍 貸出回数	475 回 (854 回)	436 回 (1,251 回)	499 回 (841 回)	786 回 (705 回)	694 回 (709 回)	493 回 (407 回)	458 回 (407 回)	411 回 (322 回)	470 回 (230 回)	519 回 (388 回)	539 回 (448 回)
電子雑誌 閲覧回数	258 回	131 回	185 回	140 回	166 回	106 回	115 回	85 回	80 回	87 回	100 回
オーディオブック 再生回数	190 回 (394 回)	191 回 (443 回)	224 回 (275 回)	217 回 (234 回)	201 回 (145 回)	254 回 (148 回)	246 回 (193 回)	163 回 (146 回)	147 回 (156 回)	212 回 (342 回)	312 回 (244 回)

※電子雑誌については、令和 4 年 4 月 1 日から利用開始

※()は令和 3 年度同月の利用実績

●各図書館において、4 月から「電子図書館使い方講座」及び「はじめてのスマートフォン体験講座」を開催しました。

＜参加人数＞

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
電子図書館使い方講座 (同日 2 回開催。定員各 5 人)	中央図書館 4 人	東図書館 申込なし	西南図書館 4 人	豊能町立図書館 5 人	止々呂美支所 1 人	中央図書館 7 人	中央図書館 2 人	西南図書館 1 人	東図書館 1 人	中央図書館 2 人	西南図書館 1 人
はじめてのスマートフォン体験講座 (定員 20 人)	中央生涯学習センター 12 人	西南図書館 9 人	船場生涯学習センター 11 人	東生涯学習センター 最少開催人数に達せず	森町自治会館 申込なし	中央図書館 7 人	中央図書館 11 人	西南図書館 5 人	東図書館 最少開催人数に達せず	中央図書館 最少開催人数に達せず	西南図書館 12 人

●令和 4 年 3 月から豊能町との図書館相互利用を正式に開始しました。

＜図書館相互利用実績（令和 4 年 4 月～令和 5 年 2 月）＞

	貸出冊数	貸出者数
豊能町民が箕面市立図書館を利用	957 冊 (747 冊)	300 人 (217 人)
箕面市民が豊能町立図書館を利用	23,973 冊 (17,602 冊)	5,275 人 (3,711 人)

※()内は令和 3 年度の豊能町との図書館相互利用（試行）実績

●昨年度オープンした船場図書館について、施設の周知を図るため、指定管理者である大阪大学との連携講座を開催するほか、地域に根ざした市民に親しまれる図書館とするため、乳幼児向けに行う「はじめてのおはなし会」や各種テーマに沿った図書展示を行いました。（はじめてのおはなし会参加者 9 月開催：37 人（2 回）、10 月開催：11 人（1 回）、11 月開催：17 人（2 回）、12 月開催：16 人（2 回）、1 月開催：14人（1回）、2 月開催：17 人（2 回））

●船場図書館と船場生涯学習センターで連携し、図書館の活用方法に関する講座を実施しました。（参加

者　6 月開催:27 人、8 月開催:21 人、2 月開催:32 人）

●国際理解を推進する取り組みとして、外国語の絵本の読み聞かせなどを通じて、外国文化の理解を深める子ども向けのイベントを開催しました。（参加者　11 月開催：子どもと保護者 15 組、2 月開催：子どもと保護者 10 組）

＜船場図書館利用状況＞

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
貸出冊数	24,077 冊	24,215 冊 (1,275 冊)	22,333 冊 (11,438 冊)	27,110 冊 (30,356 冊)	27,178 冊 (32,339 冊)	23,132 冊 (26,596 冊)	24,626 冊 (25,136 冊)	21,954 冊 (22,135 冊)	20,801 冊 (21,571 冊)	21,899 冊 (23,740 冊)	21,566 冊 (23,782 冊)
貸出人数	6,915 人	6,996 人 (536 人)	6,582 人 (3,125 人)	7,585 人 (8,071 人)	7,522 人 (8,648 人)	6,831 人 (7,553 人)	7,242 人 (7,458 人)	6,468 人 (6,370 人)	6,123 人 (6,166 人)	6,478 人 (6,562 人)	6,393 人 (6,754 人)

※船場図書館は、令和 3 年 5 月 1 日にオープンしましたが、緊急事態宣言により同日から休館となり、実質的な開館日は令和 3 年 6 月 21 日です。

※()は令和 3 年度同月の利用実績

●感染拡大防止策を行いながら、各図書館で「おはなし会」などの子ども向けイベントを再開しました。また、西南図書館においては、図書館利用の促進を図るため、地域の大学と連携した取り組み（大阪大学による「科学教室」や梅花女子大学による「ボードゲーム体験講座」）を実施しました。

●3 年ぶりに「箕面・世界子どもの本アカデミー賞」を開催し、市内小・中学生の投票により、4 部門（絵本賞、作品賞、主演賞、ヤングアダルト賞）の受賞作品を決定しました。11 月 3 日（祝）には、小・中学生の司会・進行により授賞式を開催し、約 400 人の参加がありました。

●「箕面・世界子どもの本アカデミー賞」の受賞作家を学校に招くオーサービジットを実施しました。2 月 14 日（火）、15 日(水)に、作家の原ゆたかさんが小学校 2 校、中学校 2 校を訪問し、計 1,098 人の児童生徒が参加しました。

次年度の方向性

▶「はじめてのスマートフォン体験講座」や「電子図書館使い方講座」の開催などにより、デジタル活用が苦手なかたや障害があるかたにも電子図書館の活用が進むよう、現在の取り組みを継続しながら、より効果的な手法を検討します。

▶ 船場図書館においては、さらなる利用促進を図るため、大阪大学との連携講座や子どもを対象としたイベントなどを実施します。

▶ 子どもから高齢のかたまで、誰もが利用しやすい施設として、本に親しむ機会となる行事や本のテーマ展示、親子や保護者同士の居場所となる空間づくりなど様々な取り組みをしながら、より親しみやすい図書館となるよう図書館サービスの充実を図ります。

③ 生涯学習の場の充実

◆船場生涯学習センター、船場図書館、文化芸能劇場を活用した国際理解の推進、文化芸能活動の振興など、大阪大学との連携協力をしながら、社会のデジタル化も踏まえて生涯学習の場を充実する。

◆魅力ある史跡の保護・復旧を実施していくとともに、史跡巡りのイベントを関係団体や民間企業と連携しながら開催する。

令和 4 年度取り組み

●教育大綱（2021-2024）で示された「知りたい、学びたい」「深めたい、活かしたい」「つながりたい、広げたい、協働したい」「支援・推進してほしい」の 4 つの観点でニーズを分類し、各ニーズに対応する施策を実

施できるよう、生涯学習指針（2022-2024）を策定しました。

●生涯学習センター各館において、「春の講座」（9 講座、受講者 321 人）、「秋の講座」（14 講座、受講者 373 人）を実施しました。「冬の講座」では、文化、スポーツ等の分野で活動している市内の団体と連携し、そのノウハウを活かした講座をはじめ 13 講座を企画しました（申込者 434 人）。秋の講座では、ミズノグループと連携して実施した子ども向け講座「せんばスポチャレ」は、「tomoLinks」を活用したこともあり、定員を大きく超える申し込みがありました。

●7 月 23 日に文化芸能国際交流シンポジウムを開催し、芸術文化観光専門職大学学長の平田オリザ氏による基調講演やワークショップメンバーらによるパネルディスカッションを通して、文化芸能国際交流に関するまちづくりへの考え方を市民と共有しました。（来場者数 60 人、オンライン視聴者数 538 人）

●令和 4 年度「箕面船場における文化芸能国際交流のまちづくりワークショップ」を開催し、令和 5 年度に向けて、市民が船場における文化芸能国際交流を身近に感じられるイベントの実施について協議しました。

●八天石蔵 4 箇所及び町石 3 箇所について、防護柵や案内説明看板の取替などの補修・整備を実施していきます。

●みのお八天石蔵ウォークトライアルをより多くの方に参加していただけるよう、定員を 100 人から 300 人に増加しました。また、イベントの魅力を伝えるためのチラシ・パンフレットの作成や、多くの方に周知するためのイベント情報サイトへの情報掲載等をおこないました。

次年度の方向性

- ▶ 生涯学習指針（2022-2024）をもとに、生涯学習におけるニーズに対応し、学びの機会の充実をはかるとともに、実施した施策について、生涯学習審議会等において検証をします。
- ▶ いつでも、どこでも受講できる環境を整えるため、オンライン配信等による生涯学習講座を企画します。
- ▶ 船場を拠点とした本市の文化芸能・国際交流を推進していくため、船場生涯学習センターを中心に、大阪大学との連携講座や、国際交流協会とメイプル文化財団による連携講座を開催するとともに、市民と共有できるイベントを実施します。
- ▶ 市民が市の史跡について知り、学ぶことができるよう、わかりやすく見やすい案内説明看板の設置を進めるとともに、より安全に見学できるよう、史跡及び史跡周辺の補修・整備を進めます。
- ▶ 今後も体を動かしながら、箕面の歴史文化に触れていただく機会を設けるため、みのお八天石蔵ウォークトライアルを実施します。さらに、より魅力的なイベントとして継続できるよう、実行委員及び関係団体と密に連絡調整を行います。